

ISK経営塾65期 講義キーワード

第1回

2004年12月2日(木)

- 心技体。心の認識基準と、技術面の実務力、それを支える体、仕事の筋肉を作る。
- 想いの差が結果の差を生み出す。能力の差は2～3倍、想いの差は200～300倍である。
- 人生“やっても”、“やらなくても”キリはない。せっかく生きているならば、“やる方”を選ぼう。
- 元気だから大きな声が出る、笑顔なのではなく、大きな声・笑顔だから元気が出る。
- 脳は実際に起きたことと、口に出した言葉との区別がつかない。想いを常に前向きにし、言葉も積極的な物を使う。
- 自分を律する。社会人は自己評価。自分との約束を守ること。自主性を持ち、自家発電する。
- 「できない」のではなく、「やっていない」だけ。もっと自分に厳しくする。

- To Do Listにはセルフコントロールできることだけ、その日のうちにやり仕舞いできることだけを記入する。
- 報告とは意思決定の判断材料の提供である。自分で勝手に必要かの判断しない。報告しない人間の共通項は不遜である。
- 報告のし過ぎ、確認のしすぎということはない。
- まずはモノの整理を徹する。モノの整理ができれば、時間・情報・人・金などの整理も自然とできるようになる。
- モチベーションは高い目標があるからこそ生まれる。
- リーダーの情熱が伝播する。リーダーができないと思えば、部下もやる気が起きない。
- ご縁に気付き、継続して活かしていくことで大きな差が生まれてくる。

- 今のことを命がけで行うと、自然と未来・夢が見えてくる。まずは足元、いま・ここを徹する。
- 未来は全て仮設・イメージである。どのようなイメージを描くかが第一歩である。
- 世の中思ったとおりになるものである。細部まで具体的なイメージを描ければ、自然と想いは実現してく。
- イメージを描き、連想暗示法・命令暗示法・断定暗示法で脳にイメージを焼き付ける。
- あるべき姿が明確になれば、問題の切捨てができるようになる。問題解決の第一歩は問題発見である。
- 経営とは複雑なことを簡単に、簡単なことを深く、深いことを楽しく行うことである。
- 経営・ビジネスは『原理・原則』+『意識改革』+『コンセプトの追求』である。